



本校の第1回図書委員会が開催されました。

委員選出及び班編制を行い委員長・副委員長が選出され、係分担が決定しました。

委員長

3年3組 二瓶 永遠さん（前期） 3年2組 石坂 千尋さん（後期）

副委員長

3年2組 松橋 未月さん 2年3組 片岡 真美さん 1年2組 中沢 栞さん

整理班……新着図書の装備と紹介、ポップ作り、展示棚の整備等

広報班……図書館だよりの発行など図書館の活性化を図る

文芸班……文芸誌の発行、各コンクールへの応募

まもなく新入年生の図書オリエンテーションが終了します。

閲覧のきまりやマナーを守って図書室を有効に利用して下さい。

＊閲覧のきまり

- ・開館時間は昼休みと放課後です。
- ・貸し出しは毎日行い、1人5冊まで、期間は7日間です。

＊図書室でのマナーを守りましょう

- ・他の利用者の迷惑になるような行為は慎みましょう。
- ・室内に飲食物を持ちこまないで下さい。
- ・使用した図書や椅子などはきちんと元の場所に戻して下さい。

読んでみたい本の
リクエスト受け付
けています

お知らせ

本年度も、校長先生に本・図書館の思い出等を綴っていただきました。

読書にめざめた頃（前編）

学校長 塚本 敏雄

自分は若い頃からどんな読書をしてきたのか、振り返ってみると、最初は小学生だった頃、教室や図書館にあった本を読んでいましたね。シートン動物記とか、アルセーヌ・ルパンとかは必ず置いてあって、全部読んだ記憶があります。その他、5、6年生の時に、なんとか委員会の集まりで1年生か2年生の教室に行った時に、置いてあった日本昔話のような本とか、童話とか、とてもおもしろく思っ、図書館で見つけて読んだりしていました。アルセーヌ・ルパンは、おもしろかったのが忘れられず、中学生になってから新潮文庫で買って、読み直したりもしました。

家にたくさん本があったわけではないのですが、当時、『にあんちゃん』という、貧しい家庭の少女が書いた日記が話題になっていて、わたしの家でも誰かが読んだらしく置いてあったので、わたしも読みました。

貧しい家庭の話で、かわいそうな話です。わたしも心を震わせて読みました。

裏面へ



少し年の離れたわたしの叔母が購読していた小学生の学習雑誌の付録に、『石川啄木集』という文庫本サイズの本がついてきて、雑誌の方はなくなっていました。その本だけが本棚に置いてありました。小学校高学年になった頃、この本は夢中になって読みました。皆さんも、石川啄木という歌人の名前ぐらいいは知っていますか。明治時代の歌人ですが、いまでも有名な短歌がたくさんあります。

たとえば、こんな短歌。

東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて 蟹とたわむる

不来方のお城の草に寝ころびて 空にすわれし 十五の心

不来方というのは「こずかた」と読みます。岩手県の地名で、不来方のお城とは、盛岡城のことです。啄木は26才の若さで亡くなるので多くの作品を残しているわけではありませんがそれでも2冊の歌集の他、少しの小説と詩と評論を残しています。詩は、「飛行機」という詩があつて、こんな詩です。

飛行機

見よ、今日も、かの蒼空に
飛行機の高く飛べるを。
給仕づとめの少年が
たまに非番の日曜日、
肺病やみの母親とたった二人の家にあて、
ひとりせっせとリーダアの独学をする眼の疲れ……
見よ、今日も、かの蒼空に
飛行機の高く飛べるを。



「給仕づとめ」というのは、レストランのウェイターをやっていたということです。「リーダア」というのは英語のリーディングのことで、貧しくて学校に行けない少年が独学で英語を勉強している情景です。わたしはこの詩が好きになって、覚えてしまいました。今でも、そらで暗唱することができます。

小学校6年生の時に、校舎が新築されて、図書館も新しくなりました。まだ図書館の貸し出しとか始まっていなかったのでしょう。図書館には誰もいませんでした。お昼休みに、新しい図書館にひとりで忍び込んで、ひんやりとした床に寝ころんで、石川啄木を読んでいた記憶があります。

